

Project	地域協働専攻 地域政策グループ
23	道南地域くらし応援プロジェクト(MIMIZ編集室)
メンバー	[学 生] 佐藤 ことほ / 宮田 沙耶花 / 柴田 圭介 / 高橋 佳大 / 田村 健人 / 堂前 隆成 / 松山 壮太 / 水口 花音 / 山内 あかり / 吉田 実緒 [担当教員] 畠山 大 / 藤井 麻由
<p>【背景】 ミニコミ誌「MIMIZ」の発行を通じて、地域における学生や若者とミドル・シニアとの交流・協働を活性化し、ひいては、若者の地域における就業・起業・定住を促進することに貢献する。</p> <p>【目的】 ①現場に密着して地域を見る、②物事を掘り下げて見る、③「土」(＝地域)を作り、地域の「土」となる人材を育成する、④自分たち自身が地域にとって有為な人材となることを目指す、⑤いつも前向きである。</p> <p>【概要】 函館の中で、特に雑誌の記事として取り上げるべきものを大学生の視点で探し、それを記事にして多くの人に読んでいただくことで函館地域の活性化への貢献を目指す。</p>	
<p>【プロセスと成果】</p> <p>前期は電子版のみの発行を目標にし、自分たちの興味のある分野から様々な場所への取材を行った。また連絡手段としてSlackを活用し、意見交換を行っていった。だが前期の反省点として、全員での話し合いの場での消極的な姿勢が挙げられ、前期の編集長の負担が大きくなってしまった。取材に関しては各自様々な方法を駆使して、アポ取りや取材を進めていった。大多数が雑誌作りというものが初めての経験であったため、試行錯誤を何度も繰り返しながらも無事に発行することができた。また発行してからはGoogleフォームでのアンケートを用いて、読んでいただいた人たちの声を集めようと試みたが、届いたアンケートの回答は少なく、周知活動も課題として見えた。</p> <p>後期は前期の反省をもとに電子版と紙版での発行を目標とした。紙版での発行は留意点が多くあるため、後期の活動は前期よりも全体的に前倒しで進んでいった。前期と同じように各自取材を進めていったが、一度経験したことで少し慣れることができたため、前期よりも円滑にアポ取りなどを終えることができた。また話し合いの場でも前期の反省を踏まえ、積極的に発言しようという姿勢は増えていったが、活動が終わってみると、前期同様、編集長の負担がまだ大きくなってしまっていたのは大きな反省点として挙げられる。またTwitterやInstagramでの周知活動にも力を入れることができ、より多くの人にMIMIZの活動を知ってもらえるようになっていったと感じている。だが、Instagramの更新の際の写真不足が挙げられ、各々が全体のことを意識して活動していかなければならないという反省もあった。</p> <div data-bbox="548 1650 1070 2048" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">【MIMIZメンバーの写真】</p>	

【総括と反省・今後の課題】

総括として、このMIMIZの発行は、学生にとってとても有意義な活動であったと思う。それは、雑誌作りという観点のみならず、地域での様々な取り組みに関して取材を通して知ることができたり、自分たちの興味をもっと掘り下げることで、普段知ることができないであろうことを知ることができたりと、様々な経験をすることができた。また各々Wordを駆使しながら見やすいデザインを考えたり、見ている人にわかりやすい文章を考えたりなど、「見てもらう」という意識のもと活動したことによって、より外向的な視点を持つことができたのではないかと思う。加えて地域にとってもMIMIZを前期・後期ともに発行したことによって、様々な活動や、考えなどに対する関心を高めるきっかけの一端を担うことが出来たのではないかと思う。

だが同時に反省点も多くあり、締め切りがどんどん先延ばしになる、先ほども挙げたように編集長の負担が大きくなってしまふ、など多くあった。これに関しては個人での作業が多くなってしまふ活動であるからこそ、MIMIZという雑誌をみんなで作り上げるという意識が少し薄れてしまったことが原因であると考えられる。全員が雑誌の発行に向けて一つの方向へと向かうことで、話し合いの場での発言も多くなっていくだろうし、困っていたらSlackを用いて聞くことができたと思うので、全体での意識の統一というのは今後の課題になっていくのではないか。

【地域からの評価】

取材先からいただいた声として、「何気ない会話を言語化してくれてうれしかった」というものがあったように、地域の人たちが普段考えているようなことを、MIMIZの発行によって発信することができていた。またアンケートからも今まで見てもらえなかった年齢層の方たちにも読んでいただいていた、今後の活動にいかせる意見を得ることができた。

成果報告会では、「学生目線だからこそ見える函館を発信していてとても見応えがありました」という声があり、自分たちが既存の雑誌にはない強みを生かすことができていたのだと実感することができた。

【謝辞】

最後に、MIMIZを発行するにあたってご協力いただいた多くの方々、読んでいただいた方々に感謝を申し上げますとともに、今後の活動に関してもご協力の程よろしくお願ひいたします。

【年間スケジュール】

■前期

- 4月 7日 第 1回 「オリエンテーション」
- 4月14日 第 2回 「テーマについて議論」
- 4月21日 第 3回 「企画絞り込み」
- 4月28日 第 4回 「取材準備」
- 5月12日 第 5回 「個人のデザインについて議論」
- 5月19日 第 6回 「表紙・裏表紙について議論」
- 5月26日 第 7回 「サブタイトル決定」
- 6月 2日 第 8回 「フィードバックについて議論」
- 6月 9日 第 9回 「表紙決定」
- 6月16日 第10回 「各自原稿完成」
- 6月23日 第11回 「原稿の確認・校正」
- 6月30日 第12回 「編集後記作成」
- 7月 7日 第13回 「最終確認」
- 7月14日 第14回 「8号完成」
- 7月21日 第15回 「予備日」

■後期

- 10月 6日 第 1回 「活動開始・各役職決め」
- 10月13日 第 2回 「雑誌の構成決め」
- 10月20日 第 3回 「タイトル決定」
- 10月27日 第 4回 「表紙決定」
- 11月10日 第 5回 「各自取材準備」
- 11月17日 第 6回 「取材開始」
- 11月24日 第 7回 「プレスリリースの確認」
- 12月 1日 第 8回 「取材記事以外のページの確認」
- 12月 8日 第 9回 「各自記事作成開始」
- 12月15日 第10回 「各デザインの確認」
- 12月22日 第11回 「雑誌の設置場所確認」
- 1月 5日 第12回 「仮の記事完成」
- 1月12日 第13回 「各自記事確認・校正」
- 1月19日 第14回 「入稿前最終確認」
- 1月26日 第15回 「通しゲラ完成」

